

指揮班



中隊長



消防司令長
原田 敏明

1

3度目の警防技術練成会最優秀署となりますが、今の心境を教えてください。

私自身の2度目の最優秀は20年前、城東消防署で出場した時でした。今回は、城東消防署としての最優秀も3度目となったため、20年ぶりに再び城東消防署へ優秀旗を持ち帰ることができ、そのことが何より嬉しいです。

2

「勝因」はやっぱり何だったと思いますか？

同じ失敗をしないように手段を変えれば、また違う失敗をする、その繰り返しの訓練でしたが、失敗する要因を全て訓練で出し切って本番を迎えられたことが勝因ではないでしょうか。

3

中隊長として、特に気にかけていたこと、また、中隊をまとめるためにどのような努力をされましたか？

訓練の雰囲気づくりを大事にしました。隊員達からの提案は全て受け入れました。私を含めて出場隊員一人ひとりが真剣に取り組むことで、周囲の皆の支援が得られ、全員参加で訓練することができました。隊員の怪我や体調不良など、体調管理には特に注意していました。前任の思いを引き継ぎ、隊員を選抜したので、必ず全員で出場することが私の役目だと思っていました。

4

中隊長にとって「最優秀」とは？

25署の中で一番活気に溢れ、まとまりのある消防署の代名詞だと思っています。

情報担当



消防司令補
宮脇 雄嗣

1

情報担当として、気にかけていたこと訓練で得られたものを教えてください。

消火隊の中立的な立場として、お互いの意見等を積極的に代弁するよう心がけて訓練に臨んだことで、出場メンバーだけでない城東全体のチームワーク（一体感）が得られたと感じています。

2

最優秀署を掴み取れるのではと感じたタイミングはありましたか？

1回目の事前訓練後、多数の署から操法の情報提供を求められたときです。

通信担当



消防士長
奥田 崇司

1

通信担当として、自分にしかない持ち味を教えてください。

即報内容を誰よりも簡潔かつ明瞭に即報する意識を持っていること。

2

大会本番、号令がかかる瞬間はどんな気持ちでしたか？

すごく緊張していましたが、応援席の城東消防署の署員が声援を送ってくれたので、緊張から頑張るぞという気持ちに変わりました。



警防技術練成会 最優秀署に 聞きました

— 城東消防署 —

20年ぶり3度目の最優秀署に!!

令和7年6月3日、大阪市高度専門教育訓練センターで実施された、令和7年度警防技術練成会において城東消防署が最優秀署となりました。

最優秀署になった今だからこそ言える本音は？
出場隊員はどんな気持ちだったのでしょうか。
最優秀署の皆さんに伺いました。



直近隊



中継隊



小隊長
消防司令補
古賀 稔明

1 最優秀となった今の気持ちと心がけていたことを教えてください。

最高の気分です。ただ、目標達成ではなく、通過点と思い、立ち止まらず、次なる目標に向けて動き出していきます！限られた時間の中で、効率的な訓練を考え、訓練後は必ず振り返り、次の訓練の目標を考えながら取り組むことを心がけていました。

2 チームを作り上げるために意識したこと、また「仲間との絆」をどのように感じていますか？

「1秒でも早く消火する事」をチームとして目標に、『先輩後輩関係なく本音で語り合える環境！』を意識して訓練しました。心が折れそうになっても、仲間を想うからこそ最後まで走り抜けました。勝利の秘訣は『絆！』です。



機関員
消防士長 善野 利規



隊員
消防士 原 亮成



隊員
消防士 谷浦 雄大

1 機関員として誰にも負けないことはありますか？

直近機関員に必要な状況の変化に対する一瞬の判断力と繊細なポンプ操作技術です。

2 最も苦労したことは何ですか？

圧力を調整する細かい作業の際に、使用車両の特性を理解することに時間がかったこと。

1 日々の訓練の中で壁にぶつかった場面は？

はしご固定とホース固定が苦労しました。それでも、1回1回を集中して訓練したことで、本番も普段通りのことができ、壁を乗り越えられたと思います。

2 練成会の訓練を日常業務にどう活かしますか？

「訓練をする前の準備の大事さ」がわかったので、普段の業務でも準備を万全に取り組んでいます。

1 隊員が「消防士」2名でしたが、不安はありましたか？

経験が少ないことからの不安はありました。しかし、先輩消防士と助け合いながら訓練できたことで、安定したタイムを出せるようになりました。

2 署員や家族へ伝えたい言葉はありますか？

2カ月間の温かく、時には厳しいご支援とご協力のおかげで成長することができました。ありがとうございました。



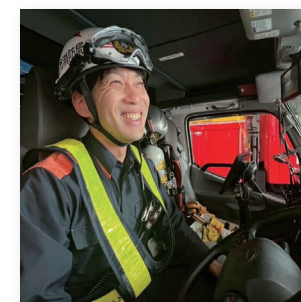
小隊長
消防司令
松吉 伸明

1 年齢や階級が異なるメンバーとの連携で意識したことは？

支援員の方たちとの連携を図り、楽しく、明るい環境での訓練を心がけました。若い隊員からの意見が自身の勉強になることもあるので、積極的に意見を出し合える雰囲気づくりです。

2 体調管理や気分転換はどのように取り入れていましたか？

訓練自体は楽しく思い通りに取り組みました。坐骨神経痛など肉体的なつらい部分はありましたが、事前訓練後に行く、プロ野球観戦を楽しみに頑張りました。



機関員
消防士長 紙屋 孝生

1 最優秀となった決め手は？

中隊としてのまとまり。操法の組み立て。あとは運でしょうか。

2 この2カ月間はどんな2カ月でしたか？

タイムを縮めるために、消火訓練に真摯に向き合った、とても良い時間でした。



隊員
消防士長 久保翔太郎

1 中継隊として譲れないこと意識していたことは？

指差確認呼称の徹底と、目切をしないこと。動きのキレ。

2 練成会の経験を今後どのように活かしたいですか？

技術は自分の糧となること、努力は報われること、を訓練を通じて後輩に伝えていくこと。



隊員
消防士 辻本 春樹

1 また、出場する機会があれば、出場したいですか？

2回、3回と最優秀となった先輩方のように、私自身も、もう一度この喜びを味わいたいです。出場したいです。

2 この2カ月間で自身の一番成長した部分は？

メンタル面と技術面です。

共に学び 共に成長

皆さん、内外部を問わず様々な研修を受講されるかと思いますが、研修で得た知識を自分だけのものになっているのがもったいないと感じたことはありませんか？
このコーナーは、研修受講者が研修の良かった点や他の人に伝えたいと感じたことを紹介し、皆さんと共有するコーナーです。共に学び共に成長しましょう！

第3回 専科教育「救助科（第89期）」（総務省消防庁消防大学校）



大正消防署 特別救助隊
消防司令補 石井 一希



消防学校恒例の記念撮影

敷地内の寮で集団生活を
送りました。寮室には談
話スペースと個室があり、
お互いの親睦を深めなが
ら、休息や学習も十分に
できる空間が確保されて
います。

消防大学校救助科は、救助業務に関する高度な知識及び技術を専門的に学ぶとともに、教育指導者としての資質を向上させることを目的としています。講義74時間、訓練・演習144時間という研修カリキュラムのうち、校外研修が5回あり、効果測定は6回行われました。

はじめに
令和6年8月21日に総務省消防庁消防大学校に入校し、52日間の専科教育「救助科（第89期）」を受講しました。ここでは、私が消防大学校で学び経験したことの一部を共有するとともに、消防大学校の魅力をお伝えできればと思います。



寮室内の様子

6名1室のメゾネットタイプで、談話室もあります。

安全文化の醸成

救助科には、安全管理に関するものとして「安全管理理論」や「安全管理技術」の習得を目的とするカリキュラムが多くありました。その中でも特に印象に残っているのは、「安全文化の醸成」をより活性化させることを目的とする、2つの校外研修（視察研修）でした。

■災害史安全教育室（東京消防庁）

この施設は、東京消防庁が経験し乗り越えてきた災害や、そこから得てきた教訓などを伝えるべく設置されたものです。研修では、殉職・被災隊員の防火衣、防火帽の展示、CGによる再現映像、遺族の想いが込められた記録映像の視聴、そして東京消防庁職員による説明を受けました。

当局でも、「安全文化の醸成」を重点目標に掲



災害史安全教育室

げて取り組んでいます。東京消防庁の職員一人ひとりの安全に対する意識の高さは当局以上であると感じました。安全を最優先する組織風土への転換を、各人が今以上に強く目指していく必要があると考えさせられた貴重な経験でした。

学生企画総合訓練

研修カリキュラムの集大成として実施されるのが「学生企画総合訓練」です。この訓練では企画・立案、計画及び要領の策定、訓練の実施、訓練の評価など、全てを学生が行います。訓練を実施する2日間は、全国各地の消防局、消防本部の特別高度救助隊が教育支援隊として招かれ、訓練の様子は全国の消防関係機関に中継放送されます。

この大がかりな訓練を運営するにあたり、消防学校入校直後から約40日間かけて運営事務を行いました。その内容は、当局では本部（消防局）が担っているような事務的なもので、私自身初めての経験ばかりでした。大規模な訓練を開催するための仕事は幅広く、細部にわたる調整が必要でした。本部職員の苦労や努力だけでなく、充実感や達成感を味わうことができたこの訓練は、私にとって貴重な経験の一つとなりました。



JAL123便事故の機体

民間企業であるJALグループの「二度と事故を起こさない」「尊い命を預かっている責任を忘れない」という決意をひしひしと感じ、自身の職責について見つめ直すきっかけとなりました。



運営事務作業の様子と企画総合訓練のポスター

全国レスキューネットワーク（顔の見える関係）の構築

消防大学校のなによりの「魅力」は、全国に多くの消防同志ができることだと思います。共に学んだ同期生は、切磋琢磨しお互いを高め合える仲間であるとともに、時間外や休日の付き合いを通して親睦を深めながら、気付くと家族のような存在になっていました。卒業後も各本部の課題や取組などの共有が絶えることなく続いています。消防大学校で得たこの絆は、今後の消防人生において大きな力になると感じています。



共に学んだ同期生

おわりに

最後に、大阪市消防局の代表として貴重な学びの機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。この経験を活かし、引き続き自身の知識・技術を高めるとともに、広い視野を持って部下指導や様々な課題に取り組む、当局の発展に貢献できるように尽力致します。

男女共同参画や多様性の社会といっても、まだまだ女性が少ない我々の消防という職場。

その中でキラリと輝いている女性の活躍や取組にフォーカスした【ジョカツ!!】。不定期ではありますが、いろんな話題をお届けしていきます。

ジョカツ!!



皆様こんにちは。令和6年4月1日より福島消防署一部警防担当課長を務めさせていただいております五十嵐と申します。

この度、数少ない女性の警防担当課長としての「ジョカツ!!」の投稿を命ぜられましたので、未だに暗中模索の日々ではありますが、現在の仕事の状況などをお話しさせていただきます。

◆中隊長って？

そもその話になりますが、私が拝命しました平成11年にはまだ女性の警防担当への道は拓かれておらず、それまでの先輩方同様、予防係員としてのスタートでした。



同期生女子と一緒に

その後、士長昇任を機に女性2期目の救急隊員として隔日勤務に就き、以後は隔勤と日勤がほぼ半分という経歴です。隔勤といっても救急と指令情報センターでの勤務のみで、あまり中隊長の仕事の間近で見てこなかったため、『中隊長は現場経験豊富な人が最前線で指揮を執っている』というイメージしか持っていませんでした。



初めて運転した救急車A365

いざ自分がその立場になってみると、部下の多さ（今まで最大5、6人↓現在49人）からくるマネジメントの課題や決裁事務の多様さなど、現場以外でも今まで想像もしたことがない仕事の困難さに直面することになりました。

◆現場対応に苦戦

現場対応についても、救急の動きは分かるのですが指揮班の動きが分からず、指令情報センター出だから無線は問題ないでしようと言われても現場で指揮情報系も署活動系もほとんど使用したことがなかったため、正直今でも苦戦しています。

◆私が中隊長で良かった点が

あるとすれば……

- ・救急が長かったこともあり、救急隊への配慮を忘れず、すごすことができること
- ・救命士の習い性で一人ひとりの体調を気にすること
- ・正機関の経験から、事故についての感覚が高いこと
- ・管理司令の経験から超過勤務や特殊勤務等の手当てについてチェックができることや休暇取得等について多少詳しいこと
- ・女性吏員に寄り添った目配りができること

があると思います。

◆心がけていること

人事考課の評価欄を定型文ではなく自分の言葉で書くこと。

人数が増えて大変になってきましたが、評価する側からは49人のうちの一人でも評価される側は自分だけのことで、評価や感謝を伝えられる大切な機会ととらえて頑張っています。



平成20年西成自衛消防出初式での梯上演技中の五十嵐警防担当課長

◆非番・休日の過ごし方

帰宅すると、唯一の家族である白猫（雄6歳）が玄関先で待ち構えていますので、リードをつけて散歩をします。近所では散歩猫として認知されています。その後は家を片づけたり食事を作ったり普通の家事に追われています。可能であれば、編み物や縫い物などの趣味の時間を作り、楽しみます。

休日には軽く山に登ったり、ロード



警防技術練成会 福島指揮班

◆今後の目標

休暇をしっかりと取る↓休んだ分メリハリをつけて仕事もしっかりとする↓職場の雰囲気良くなり、ケガや事故が少なくなる↓離職者や仕事を辞める者がいなくなる↓休暇がとれる、という正のスパイラルが根付くようマネジメントを行うことです。

バイクでちょつと遠出したりしています。他にも歌舞伎や文楽を観に行ったり（すぐ泣いてしまいます）、推し活でリフレッシュしたりと結構充実した休みを過ごしています。

◆これから警防担当課長に

なっていく方々へ

私自身、まだまだ知らないことやわからないことは多々あり、毎日勉強の日々です。しかし、今まで26年間勤務してきたどんな経験も無駄ではなかったと実感しています。

今年度は警防技術練成会に出場し、消防学校時代以降初めての警防訓練に参加し、選手・支援の皆が一丸となつてひたむきに訓練に取り組むというかけがえのない経験をさせていただきました。私自身は消防学校時代の訓練以降は署内ポンプ操法さえ出場したことがなく、警防訓練は全くの初めてというありさまでしたので、当然皆を引っ張ったり鼓舞したり、綿密なスケジュールを立ててそれを実行するということはできません。なので出場者・マネージャー・安全管理・配置等最大限のバックアップをいただいた上で、何もかも最初から教えてもらう代わりに訓練を1日1回たりとも手を抜かないと決めて、最後まで全力で走り抜けることができました。結果は伴いませんでしたが、全員で模索し、練り上げ、突き詰めていった訓練の経験は他に代えがたく、本当にこの仕事をさせてもらって良かったと思います。

今の仕事に全力で取り組み、その上で臆せずこの立場に飛び込んできてください。警防担当課長は消防の仕事の集大成的なところがあると思います。



警防技術練成会 福島中隊

5回目となりました、久しぶりの「ジョカツ!!」

いかがでしたか。

今回は、警防担当課長として勤務されている方のお話を伺うことができました。

様々な経験を力にして、成長しつづけていってくださいね。

次回もお楽しみに。

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第17回 新設されたDX推進担当について

警防課〈DX推進〉

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

はじめに

「一企業や個人レベルにとどまらず、様々な社会的課題を解決する手段としても注目されているDX。DXとは「デジタルトランスフォーメーション」の略称で、企業をはじめ多くの組織において、デジタル化していく社会の変化に対応すべく、新しい技術を活用した既存のシステムの変革が目指されています。

そんなDXに取り組むべく、警防課に「DX推進担当」が令和7年4月に新設されました。今回はDX推進担当の取組を紹介しながら、消防におけるDXの推進について考えたいと思います。

DXってなに？

「DXって聞くけど、それって民間の話じゃないの?」「消防には関係なさそう……」、そんな風に思っている方も多いと思いますが、実は、消防にこそDXが必要だと言えます。

たとえば、「手書き書類の山が減らない」「24時間の交代勤務で情報共有に時間がかかる」「照会回答に要する労力をなんとかできないか」……そんな、日々のモヤモヤや無駄を減らすのが、DXの力です。

具体的には、デジタル技術を活用し、仕事や組織のやり方をより良く変えることが目指されます。紙の報告書や届出がオンラインで提出できる、対面での伝達がオンラインやクラウドの共有で完結する等、すでに消防でも導入されているシステムがこれにあたります。



DX推進担当ってなに？あるの？

警防課情報システムに新しく配置されたDX推進担当ですが、前身は庁内担当で、今でも庁内ネットワークはDX推進が担当しています。

(図1)

基本的には課内に勤務していますが、「〇〇の使い方がよくわからない」「こういうツールを試せたりしないかな……」といった相談があれば、すぐに依頼者の元に駆けつけます。メンバーは係長以下3人と少人数ですが、話しやすく頼れる「お助け三人組」を目指しています。

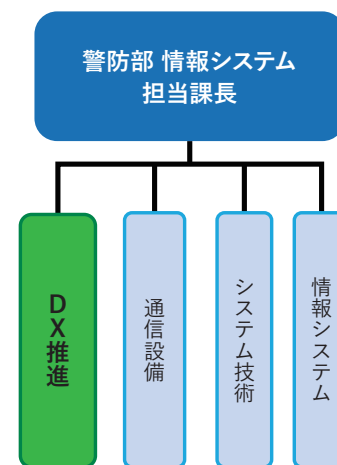


図1 組織図

DX推進担当は何をしてくれるの？

DX推進担当は、各課所、各消防署の現状やニーズを把握するとともに、外部事業者や市のデジタル統括室とも連携しつつ、業務改善等に向けて具体的にサポートしています。(図2)

■警防課DX推進担当の役割

- ① 各課等における事務・事業DX化のサポート
- ② 各消防署等で既に実施されているICT活用事例の横展開の推進

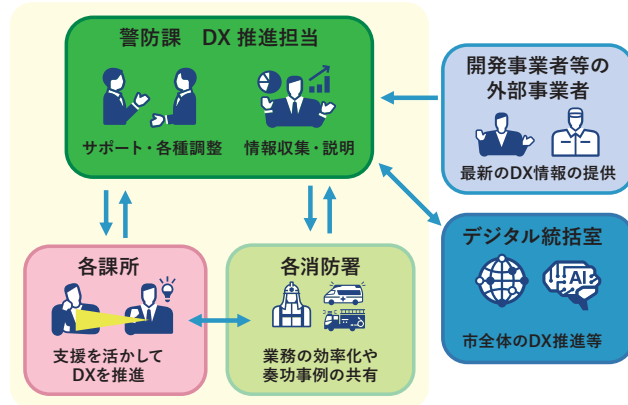


図2 DX推進担当の立ち位置

DXの取組事例

現在、大阪市消防局では、DX推進事業として、以下のシステム運用を開始しています。

- 消防手続きをオンラインで完結(規制課)
- 防火・防災管理者ニーズにあったスマートな消防行政サービスの提供(予防課)

これらの他にも、「ドライブレコーダー映像の利活用」(環境局)、「現場におけるウェアラブルカメラ等を活用した業務効率化」(建設局)等、大阪市の各所属において多くの取組が動き始めています。

DXはいつから始めるべきなの？

DX推進は、現場と一緒に考え、具体化していくプロジェクトです。頭で考えて「変えよう」とするのではなく、日々の業務の滞りなどがきっかけになって、「もっとラクにしよう」という発想が生まれて始まるものと言えます。

おわりに

「こういうのがあったらいいな」「毎回これだけのことをするのは面倒」……そんな声が一番のヒントになります。いきなりすべてがデジタル化できるわけではありません。まずは「小さな一歩」から始めていきましょう。

DXの推進は、職員一人ひとりの行動にかかっています。みなさんが今までに経験し現場で感じていること、実現したいことなどを一歩でも前に進めるために、「夢やアイデア」に能動的かつアクティブに取り組む、一緒に大阪消防の未来を作っていきましょう。

